

五街道の中心地点より 箱根への第一歩を踏み出す

東海道のみならず、日本の道路のスタート地点として輝くランドマークが、言わずと知れた日本橋。江戸時代の五街道（東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道）それらをもとに近代以降整

備された国道1号、4号など数々の幹線がここから出発している。橋の中央には、「日本国道路元標」が埋め込まれている。
日本橋は江戸幕府が開かれた1603（慶長8）年、日



あまりにも有名な広重の「東海道五十三次之内 日本橋」(提供:川崎・砂子の里資料館)



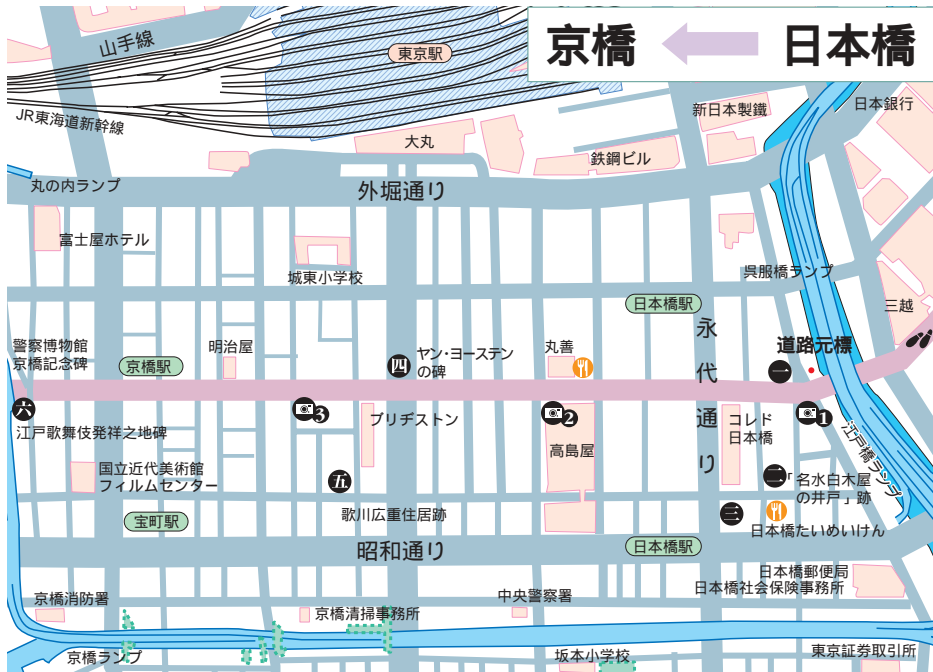
橋の歴史的な景観が首都高速によって壊されているとして、埋設や移設、区間廃止などを求める声が上がっている

本橋川の上に架けられた橋である。かつては歌川広重の絵でもおなじみの木橋だったが、火事などで何度も失われ、1911（明治44）年、19代目となる現在の石造二連アーチ橋が架けられた。橋銘は江戸幕府最後の将軍・徳川慶喜の筆によるもの。橋の欄干に建つ青銅製照明灯には、東京の繁栄と守護を表す麒麟・獅子像が刻まれている。

現在、日本橋の上には首都高速が走っている。高度成長時代、東京オリンピックを翌年に控えた1963（昭和38）年に通されたものだ。かつては広重の絵にもあるように富士山を眺めることが

できたが、いまでは江戸当時の日本橋界隈の姿は残念ながら望めない。

日本橋は当時から日本経済の中心地でもあった。橋の南詰には高札場が、北側一帯には魚河岸や問屋街があり、三井財閥の本拠地も橋のすぐ北にある。その西側に路地を入ると、日本の中央銀行である、日本銀行（日銀）が建っている。また、日本橋川の右岸を東へ向かうといわゆる「兜町」で、東京証券取引所や大小の証券会社が軒を連ねる。東海道の旅を始める前に、近世・近代そして現代日本の発展を支えた地域を歩いてみるのもいいだろう。そうすれば、かつての東海道や現代の国道1号線がこの日本橋からスタートしていることの意味を、肌で感じるができるはずだ。



日本橋へのアクセス

・東京メトロ銀座線 / 東西線: 日本橋駅下車
・東京メトロ半蔵門線: 三越前駅下車



日本橋の橋のたもとから、南の方向を見る。東海道はここから始まり、京都は三条大橋までおよそ500キロメートル続いている。

日本橋から東海道の第一歩を踏み出すと、まず交差するのが永代通り。交差点の手前左側に威容を誇る巨大なビルがコレド日本橋だ。ここで永代通りを左に折れば、日本橋茅場町を抜けて永代橋で隅田川を渡り、深川門前仲町へ至る。

永代通りを越えたとすぐ、左に日本橋高島屋の優雅な建物が姿を現す。その向かいには、2007年に改装したばかりの丸善が建っている。高島屋、丸善の間を過ぎて南に向かうと、道幅の広い通りにぶつかる。右を見れば大丸百貨店の建物が見える。ここが東京駅の八重洲口である。さらに進めば、右に明治屋の風情ある建物が見えてくる。京橋はもうすぐそこだ。